

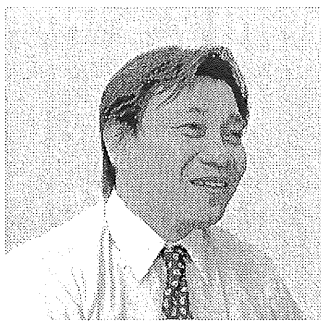
インタビュー

4月にトライウォールジャパン(統括本部)前橋市、0027・210・5510)の代表取締役社長に就任した宮崎英二氏に、グローバル・ブランドであるトライウォールが今後、日本市場でどのような役割を果たすのかなどをインタビューした。

◇ ◇

トライウォールと日本市場

「トライウォール



トライウォールジャパン代表取締役社長 宮崎 英二氏

パック」は、日本においては三層段ボールの代名詞的に扱われることもありすが、輸送梱包資材用の三層段ボールにおける世界で唯一のグローバル・ブランドです。今年の4月に日本におけるトライウォール事業の責任者であるトライウォールジャパンの代表取締役社長に就任しました。日本に戻ると以前の5年間は中国の現地子会社である特耐王包装(常州)

有限公司で、トライウォール事業に携わっておりました。

当然、中国と日本

ではビジネスについては慣習が大幅に異なります。共通項を探すが困難と言えるでしょう。トライウォールは環境変化に高い性能を有す資材

併せ持つ特異な構造を有し、国策による影響が顕著です。

日本では経済環境

の変化は激しいものの、国策により急激に対応が変化するということは想像しにくいです。それぞれ

不況こそ伸長する好機

ファブリケーターとの連携で

ですが、ある意味人間においてもそうした点が重要であると感じます。

中国と日本を比較

すると、中国は内需の消費が高まっています。国内消費という意味での需要と輸出の拠点である工場という二つの側面を

いる状況は異なりませんが、現在、他のアジアの国々と比較して、成熟された市場に位置しています。

ですから、今後、日本でファブリケーターと共に構築したノウハウ、ないしシステムをさらにカスタマイズし、広く東南

アジアのグループ各国にも生かし、また日本市場においても物流ソリューション企業の実現のためにも進んで参ります。

VAの世界大会

で切磋琢磨 高品質な資材を可

全国を網羅。各地域のパートナー企業と連携し、ファブリケーターと呼ぶ製園工場との独自のネットワークを構築しているのが何よりの強みです。また、海外では独自の運営を行っています。

ファブリケーター

と連携したコンサルティングも、当社ならではの特長です。蓄積したノウハウを生かして、独自のVA(価値分析)による改善提案により、コストダウンと環境負荷軽減を推進してきました。

こうした意欲をよ

り高める意味もあり、毎年、各国からファブリケーターがトライウォールのVA(価値分析)を競う世界大会を開催しています。今年も10月末インドネシアで開催。これには日本の25社から代表3社、中国の45社から3社、その他アジア地域の20社から3社のファブリケーターが参加しました。

同催しの目的は

お客様の物流費用の低減です。荷物の種類等の条件から包装デザイン等も含めたトータルソリューションの弊を披露する場であり、ファブリケーターにとっては日常業務で大きな目標の一つになっていきます。

ともあれ、総合的な物流のコンサルタ

ントとしての役割を担えるトライウォールというのは素晴らしい可能性を秘めています。ファブリケーターが多くのアイデアを惜しまず提案するからこそ、顧客満足度を追求しトライウォールがグローバルに展開できたという側面があるでしょう。

今もなお日本は

厳しい経済環境下にさらされていますが、過去を振り返ると不況のたびにトライウォールは伸長してきました。その意味においては好機とも言えます。変化を求めているお客様が多い今、日本の付加価値を具体的な形として世界のお客様にも貢献することが、今後私の重要な仕事だと実感しています。

と実感しています。